【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立神野小学校
1　前年度 評価結果の概要	・校内研究教科「算数科」を中心に授業改善に努め、県学習状況調査や児童の実態調査からも学力が着実に向上していることを実感できた。「心の教育」については、心のアンケート、学校生活ンケート、教育相談等により児童理解を深めることができたと考えられるが、学校生活や家庭生活に悩みを抱える児童も多く、効果的な支援につなげられるようにより組織的に対応することが必要である。また、昨年度もコロナ禍の影響で教育計画に沿った活動を十分に行うことができなかった。通学路での交通事故が発生してしまったこともあり、児童の生命と安全を守る面も含めて、より地域や関係機関と連携した教育活動を行っていきたい。
2　学校教育目標	夢をもち　心豊かに　たくましく生きる　神野っ子の育成
3　本年度の重点目標	①魅力ある学級運営、協働体制に基づく学年経営力の向上②学力向上の取り組み③特別支援教育の充実④生徒指導・教育相談の充実⑤人権・同和教育の推進⑥神野地域との連携推進⑦幼保小連携・小中連携、家庭教育の活性化⑧食育・健康教育の充実⑨学校における働き方改革

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・問題解決型または探求型の学習過程の在り方を全職員で共通理解し、ノート指導や学習のきまりの指導の徹底を図る。	B	・算数科を中心に、問題解決型または探求型の学習過程の在り方を全職員で共通理解し、指導の徹底を図った。 ・学力向上対策評価シートで成果指標の共通理解を行い、PDCAサイクルを意識したマイプラン作成に繋げた。	A	・児童にとった算数アンケートでは、ほとんどの学年で「算数を好き」と答えた児童の割合が、6月より12月の方が多くなっている。教職員の校内研や学力向上の取組がいい形となって現れている。
	○主体的に学び、進んで考える児童の育成	○校内研究（算数科）への取り組みを全職員で共通理解・実践し、算数の学習が楽しいと答える児童を80%以上にする。	・興味・関心・疑問を引き出す教材開発を行い、既習の「知識及び技能」「数学的な考え方」をもとに数学的活動を行うことで、主体的に学び、すすんで考える児童を育てる算数科学習指導を研究する。	A	・「主体的に学び、すすんで考える子どもの育成」を目指し、5つの視点を取り入れた授業を行った結果、算数が「とても好き」「まあまあ好き」の割合が3ポイント増加している。 ・「めあて」を自分で考えたり、友達と話し合ったりして決めることが「できる」の割合が2ポイント上がっている。 ・多くの子どもが、少人数での話し合いの際には、絵や図、式、などを使って自分の考えを表現できるようになってきている。	A	・学習状況調査の結果はすべての学年・観点で県平均を上回っているものの、児童アンケートの結果からは上級生になるにつれて「学習がよくわかる」の割合が下がっている。結果と学習に対する実感が一致していないものと思われる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童理解を深める取り組み（教育相談週間の設定と100%の実施） ○ふれあい道徳として、道徳の授業を全学級で公開する。	・教育相談週間を設定し、児童一人一人の状況を把握し、「心の居場所づくり」と「絆づくり」に努める。 ・フリー参観デーで道徳授業を公開し、家庭・地域と心の教育の連携を強める。	A	・11月に第2回のQUアンケートを実施し、6月の学級の状態と比較することができた。各担任がフィードバックする機会となり、学級経営の改善に努めることができた。 ・SCを活発に利用できた。保護者からの申し出も多かったが、子供たちからの相談もしばしばあり、「心の居場所づくり」の保証はできたように思う。	A	・保護者、教職員ともにアンケートのポイントが高く、子ども達の豊かな心が育っているものと思われる。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見と迅速かつ的確な対策組織の構築・推進、対策後の職員間の共通理解を必ず行う。	・アンケート等で問題事案を覚知した場合は、早急にチームで対応する。正確に事実確認をし、話し合いの場を設け、早期解決を図る。	B	・いじめの早期発見、早期対応と児童の人権意識・思いやりの心の向上を目指し、「いじめ未然防止のための取り組み」を全職員で行うことができた。 ・一部解消に至っていない事案が残っており、引き続き学校全体で連携して対応していく必要がある。	A	・児童の「困ったときに相談できるか」の評価が低い。いじめはあるけど困ったときはきちんと先生が対応してくるという安心感をもたせられるよう改善してほしい。
	○特別支援教育の推進	○特別支援教育COが中心となり、特学担任全体での支援体制を整え、月一回の支援の実態把握を行う。	・児童一人ひとりのニーズに応じた集団での学びと個別の学びの充実を図り、社会的自立に向けた指導・支援を行う。	B	・特別支援学級担任での連絡会を随時開催し、支援方法などについての共通理解場をすることができた。 ・「本人の思い」と「保護者の思い」を汲み取り、入級に向けての手続きを進めてきた。しかし、特別支援教育学級担任、通常学級担任及び管理職との連携ができていない場合もあった。 ・支援員も4名に増え、多くの児童に支援が行き届くようになってきた。	B	・連携が不十分だったところについては、今後、組織として確実に対応してほしい。
●健康・体つくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が１週間で300分以上の児童を80%以上にする。	・外遊びの奨励、スポーツチャレンジ等の取り組みによって、日常的に体を動かす機会を増やし、意欲向上のきっかけにする。また、体育の授業において、運動の喜びが感じられたり基礎体力の向上につながったりする活動を取り入れる。	B	・体育館などを活用し、昼休みに運動の機会を作っている学級がみられた。 ・スポーツチャレンジへの取り組みがなかったため、積極的に呼びかけを行う必要がある。 ・県や全国の研究授業を引き受け、児童が運動の喜びを感じることができるような活動について協議をおこなった。	B	・運動週間の定着と改善について教職員の評価が高くはない。改善が必要だと考えられる。 ・家庭学習の時間が多いので、その分外遊びなどの運動の時間が少なくなってしまっていることも考えられる。
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●健康に食事は大切である」と考える児童８０%以上	・担任と栄養教諭が連携し、計画的に食育指導を行う。また、授業参観時に食育の授業を行うことで、家庭へ食育へとつなげる。	B	・「健康に食事は大切である」と考えている児童は88.5%であった。 ・栄養教諭が授業へ参加する機会は多かったが、学校全体での食育推進にはまだ課題がみられる。	A	・アンケートの結果からは、児童の食に対する意識の高さがうかがえる。その中で、担当者の評価が高くないのは、残食率の高さがあるからか。
	●安全に関する資質・能力の育成	●児童の交通事故・重大事故を０（ゼロ）にする	・担任、安全指導、生徒指導主任との連絡を密にし、児童の安全への意識を高める指導を行うとともに定期的に学校内外の安全点検を行う。	A	・11月2日に地震・火災避難訓練を実施。事後アンケートを基に次年度改善点の会議を実施し職員会議にて情報共有を行った。生徒指導主任より、2学期終業式において、冬休み中の大きな事故防止にむけ、ヘルメット着用を重点に生活に話を実施した。職員連絡会及び生徒指導連絡協議会を実施し、職員間の情報共有を行った。	A	・今年度、重大な事故が起こらなかったことはとてもよかった。自治会と連携した通学路合同点検の取組も始まったので、今後も児童の安全を守るための取組を行政とも連携して進めていきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外勤務時間の上限を遵守する。	・個別に勤務時間を集計・提示することで現況の時間外勤務の45時間を全員が遵守するように努める。 ・行事や教育活動、各種会議、研修や出張等の精選や見直しを進める。 ・ICTを活用した業務の効率化を進める。	B	・下期は、月45時間の時間外勤務時間の上限を超過した教職員がどの月も30%程度となり、上期と比較すると減少した。 ・会議、連絡会等の効率的な運営が定着してきた。 ・「れんらくアプリ」の活用の幅が広がり、時間外勤務時間の削減につながった。	B	・PTAの理解と協力により、欠席連絡アプリを導入できたことは、朝の時間の学校にゆとりを生み出した大きな成果だと思われる。非常にいい取組なので市で予算化していくことを期待したい。
	○教職員の働き方についての意識変革	○働き方について、研修等を通して教職員の意識を変える。 ○金曜日の定時退勤するための取り組みを行う。	・長期休業中等に「働き方」について考える研修を行う。 ・業務を見直し、重要度にあわせて取組の優先順位をつけたり、業務終了時刻を設定したりして、定時退勤を促進する。	C	・今年度も時間外勤務時間360時間を越える教職員が多くなってしまったが、平均時間数を昨年度と比較すると昨年より15時間程度減少した。 ・突発的な事案に対する対応以外は、どの教職員も退勤目標時間を意識しながら効率的に働こうという意識が見られるようになってきた。	C	・時間外勤務時間をただ減らしても、業務自体に支障が出てしまう。粘り強く取り組んでいくしかない。 ・学力向上にも、いじめにも、食育にも、すべてに対応する先生方のがんばりに頭が下がる。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○開かれた学校づくり	◎地域連携を効率的・効果的に推進し、地域の良さを知り、進んで地域に関わろうとする気持ちを育む教育活動の推進	○地域の人材等の活用を効果的にできるように連絡・相談体制を確立し、実践する。 ○地域の良さを知り、その良さを実感する児童を80%以上にする。	・各教科並びに総合学習において、地域の人・物・事と密接に関連のある単元を1学期当初には明らかにし、地域の関係者と学年の担当者との連絡体制を整える。 ・公民館や地域団体と連携し、児童が地域行事等に進んで参画しやすい環境を整える。	A	・各教科並びに総合学習において、地域の関係者と学年の担当者との連絡体制を整え、地域素材をいかした学習に取り組むことができた。 ・コロナ禍ではあるが、公民館行事や、PTA行事も少しずつ実施できており、地域の良さを知ることで、「神野の町が好き」と感じる児童は80%以上となった。	A	・学校に対して、地域による気くばり、目くばりが大切である。 ・コロナ禍の中での取り組みとしては、十分評価できる。 ・コロナ禍の弊害として、あいさつが減った実感がある。あいさつのできなさが気になる。
○危機管理体制の強化	○未然防止対策を基点とした報告・連絡・相談体制の確立と組織対応力の向上	○いじめや事故の起因となりうる事案に関する報告・連絡・相談体制のさらなる強化を図る。	・学年グループと生徒指導部、教育相談部、養護教諭、栄養教諭との連携をを密にし、問題事案についてチームで確実に対応し、効果的な指導や対処を行う。	A	・遅滞ない「報告・連絡・相談」体制を全職員で確認し、組織的に各事案に対応することができた。 ・各事案への対応状況・結果を情報共有し、教職員の対応力の向上につなげることができた。	A	・いろいろな事案に対して、常に組織的な対応が行われていることは評価できる。今後もこの体制を継続してほしい。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・今年度も、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、いくつかの学級閉鎖を行い、学校行事の中止や縮小等、様々な教育活動で大きな制約を受けることとなった。その中で、教育的な効果を求め、様々な工夫を行いながら学校運営を行ってきたことは、大きく評価できる。次年度は、コロナ感染防止対策が大きく緩和されることになるので、コロナ禍以前の家庭や地域、外部機関との連携を取り戻し、実践できる教育活動の幅を広げていきたい。また、再び地域との連携を推進し、開かれた学校づくりに取り組み、心豊かな、地域を愛する児童を育てていきたい。 ・校内研究では、「算数科」を中心に授業改善、学力向上に努め、全国学習状況調査や県学習状況調査では、すべての学年・教科で県平均を上回る結果が得られた。児童の問題行動等の事案は少なく、全体的に児童は落ち着いて生活できている。しかし、個別の対応や支援を必要とする児童も少なからずおり、学年や学校全体でケースに即した対応ができるよう組織的な体制の改善を図っていきたい。今年度は、児童の重大な交通事故は発生しなかったが、今後も事故防止に向けて、児童への安全指導を強化し、地域とも連携して児童の安全を守るための対策を進めていきたい。